

2025 年度 中国語教育学会 第 2 回研究会 実施要項

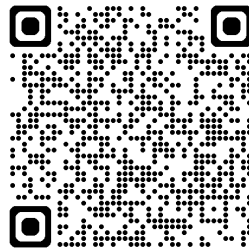
I、開催日

2026 年 3 月 1 日（日）13:00～16:45

- ・オンライン（zoom）で実施。2 月 26 日（木）までに申込者に Zoom アドレスを送信予定です。
- ・参加費無料（会員以外は google フォームで事前申込）**2 月 23 日（月）23:59 までにお申し込み下さい。**

<https://forms.gle/JU16UyCHeZ7WpBB3A>

<QR>



2、当日の流れ（発表 30 分＋質疑応答 10 分＝1 人 40 分）

13:00～13:05 諸注意

| | |
|--------------------|-----------------------|
| 13:05～13:45 | 発表者 1 (質疑応答含む) |
|--------------------|-----------------------|

| | |
|--------------------|-----------------|
| 13:45～13:50 | 休憩 (5 分) |
|--------------------|-----------------|

| | |
|--------------------|-----------------------|
| 13:50～14:30 | 発表者 2 (質疑応答含む) |
|--------------------|-----------------------|

| | |
|--------------------|-----------------|
| 14:30～14:35 | 休憩 (5 分) |
|--------------------|-----------------|

| | |
|--------------------|-----------------------|
| 14:35～15:15 | 発表者 3 (質疑応答含む) |
|--------------------|-----------------------|

| | |
|--------------------|-----------------|
| 15:15～15:20 | 休憩 (5 分) |
|--------------------|-----------------|

| | |
|--------------------|-----------------------|
| 15:20～16:00 | 発表者 4 (質疑応答含む) |
|--------------------|-----------------------|

| | |
|--------------------|-----------------|
| 16:00～16:05 | 休憩 (5 分) |
|--------------------|-----------------|

| | |
|--------------------|-----------------------|
| 16:05～16:45 | 発表者 5 (質疑応答含む) |
|--------------------|-----------------------|

<お願い> ・セキュリティの観点から、入室者の確認を致します。入室されましたら Zoom のお名前を「フルネーム_所属」に変更してください。

・発表中、お聞きになる方は必ず音声・ビデオをオフにしてください。質問はチャット欄への記入、あるいは発表終了後にマイクオンで、音声での発言をお願いします

発表要旨

発表者 1・実践報告

Microsoft Teams を活用した中国語授業における日中大学生交流活動の実践報告

劉淼（沖縄国際大学）

ポストコロナ時代に入り、人的移動に関する制限は解除されたものの、中国への留学希望者数は、依然としてコロナ禍以前の水準には回復していない。こうした状況を踏まえ、学生が母語話者と直接交流できる機会を可能な限り確保することを目的として、Microsoft Teams を活用したオンライン交流を取り入れた中国語授業活動を企画・実施した。本活動は 2024 年度より試験的に導入され、2025 年度前期には本格的に展開された。本報告では、2024 年度および 2025 年度に実施したオンライン交流活動の具体的な実践内容を整理するとともに、活動設計時の構想、教育的意義および実施上の課題について検討する。さらに、授業終了後に日本側学生および中国側の大学生・大学院生を対象に実施したアンケート調査の結果を基に、参加者の学習意識に与えた影響、コミュニケーションにおける方略の特徴、四技能別の学習効果について分析を行う。

発表者 2・研究発表

現代汉语中“一个”的话语标记功能

薛晨（島根大学・非）

本次报告将分析现代汉语中“一个”逐渐发生固化并具有话语标记功能的这一现象。本文基于方梅（2000）、吴福祥（2005）等对话语标记的定义，并观察实际语料得到了以下发现：我们发现“一个”的实在意义已经弱化，第一，从句法层面来看，无论“一个”存在与否，并不对包含它的句子的语法正确性产生直接影响。第二，从语义层面来看，无论“一个”存在与否，并不对句子的意义产生影响。篇章上的连接和引导功能逐渐增强，主要表达程序义。基于此推测，我们考察了“一个”在话语中的使用情况，得出以下结论：1. “一个”具有占据话轮、标示补充说明内容、话题前景化的语篇组织功能。2. “一个”具有表明说话人态度的元话语功能。另外，本报告还将进一步分析“一个”所衍生出的话语功能与其标记新信息这一功能有关。最后，鉴于“个”具有较高的使用频率，我们建议教师可以对“个”标记新信息以及主观性用法在课上进行适当讲解，本文将提出一些教学设计，供大家参考。

発表者 3・研究発表

学習者の言葉探しにおけるコードスイッチングの相互行為機能と学習機会 —会話分析の手法を用いた中国語接触場面の研究—

吳青青（長崎外国語大学）・陳力（神田外語大学）

本研究は、日本人中国語学習者と日本語ができる中国語母語話者との自然な中国語会話をデータとし、学習者が言いたい内容を即時に産出できない時の言葉探しの過程で産出されている日本語へのコードスイッチング（Code-Switching, CS と略す）がどのように相互行為を組織し、いかなる条件のもとで学習のきっかけが生じるのかを、会話分析の手法に基づいて検討するものである。分析の結果、CS は会話の進行を維持し、相手との共同理解を達成するための資源として機能することが明らかになった。さらに、CS は、学習者が「どの語を探しているのか」を相互行為的に可視化し、後続の相互行為において、当該語彙が中国語の語彙形式として提示・確認されることで、

学習機会が生じることが示された。一方で、母語話者がCSを意味理解の資源として処理し、会話の進行を優先する場合には、当該局面において学習機会が生じないことも確認された。

発表者 4・研究発表

“得”字様態補語の構文的・文体的特徴 —中国語母語話者コーパスに基づく量的分析—

陳迪（神戸大学）

本研究は、中国語母語話者の書き言葉均衡コーパスである BFSU ToRCH Family Chinese Corpora を用い、Python により様態補語として用いられる “得” 字構造を網羅的に抽出し、その構文的パターンおよび文体的分布を分析した。その結果、(1) “得” の前には動詞が圧倒的に多く(延べ語数 83.5%)、特に他動詞が優勢であった(例: 说, 吓)。(2) 後項は「副詞+形容詞」が中核をなし、慣用表現や比較構造など多様な形態が確認された。前後の組み合わせからは、「動作の質的評価」「感情的反応」「性質の程度」「変化の結果」という四つの主要な意味パターンが確認された。(3) 文体的には、学術・社説などの客観的文体では稀であり、文芸・小説・通俗読物など主観的・描写的文体に集中していた。これらの知見は、様態補語の体系的な理解に寄与するだけでなく、中国語学習者の描写表現力を育成するための指導法改善や、教材開発における基礎資料として活用できることを示唆している。

発表者 5・研究発表

日本における広東語自律学習者の学習実態と発音学習上の困難 —インタビュー調査に基づく基礎的分析—

桂 雯（東北大学）

本発表は、日本語母語話者による広東語自律学習の実態を明らかにすることを目的とし、特に発音学習上の困難に焦点を当てて行ったインタビュー調査の結果を報告するものである。日本において広東語は一定の学習需要がある一方、教育機関の授業や講座で学習する機会は限られており、多くの学習者は書籍や動画教材、学習アプリ等を組み合わせた自律的学習に依存している。本調査では、日本における広東語学習者を対象に、学習動機、使用教材、学習方法、発音練習の進め方、学習上の困難点について、質問項目を設定した半構造化インタビューを実施した。分析の結果、声調や音節末子音といった広東語特有の音声的特徴に対する困難が多く指摘されるとともに、発音練習における自己評価の難しさや、学習支援の不足が学習継続に影響していることが示唆された。本発表では、これらの結果を整理し、日本における広東語自律学習者の発音学習の現状と課題について基礎的に考察する。